

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700110		
法人名	株式会社 久慈山形介護センター		
事業所名	グループホーム しらかば園		
所在地	〒028-8602 久慈市山形町川井10-55-1		
自己評価作成日	令和2年1月 日	評価結果市町村受理日	令和3年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然豊かな環境</li> <li>・地域行事への積極的な参加により地域とのつながりを持つ</li> <li>・畑作業で収穫した野菜でのおやつ作り等実施し自宅にいる時のように過ごす</li> <li>・外部からのボランティアを受け入れ楽しく過ごす時間を設ける</li> <li>・停電に備え電源確保のため自家発電装置を2台設置している</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所には小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、共に理念の一つである「福祉の街づくり」の一翼を担って、介護サービスを提供している。また、もう一つの理念である「その人らしく生きていけるための支援」の実践に当たっては、職員がそれぞれの目標を定めて、より良いケアの提供に取り組んでいる。今年度はコロナ禍のために地域との交流行事等が中止となっているが、普段であれば事業所の夏祭りや大相撲力士の施設訪問などを通して、地域住民との活発な交流を行っている。昨年の洪水警報時には、避難の際に地域の方々の協力も得られており、着実に地域に根を下ろした存在となっていることが窺われる。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年1月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の異動があったため、その職員の分を新しく掲示した。移動がなかった職員も改めて自分の掲げた理念を再確認。また、全体としての理念の確認に努めている。	「その人らしく生きていけるよう支援」、「地域と一緒に街づくり」とする法人の基本理念のもと、各職員ごとの目標を定め、写真付きでホール入口に掲示している。毎朝の出勤時に自らの目標を確認してから業務を開始している。思いを汲み取るケアに生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	買い物など、ささやかでも地域との交流をして来ていたが、今年はコロナのため、たくさんの行事がなくなった。少しずつ回復していけたらと思う。	コロナ禍のため地域との交流活動が大きく制限されているが、町内の草刈り活動には事業所でも参加している。例年多くの地域住民が来ていたっている事業所の夏祭りは、中止とした。近所の商店での買い物や傾聴ボランティア等の来訪も控えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同様、コロナのため現在は難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で会議は自粛している。おたよりを発送し施設の様子をお知らせしている。	運営推進会議には民生委員や行政区長会長など、地域関係者がバランスよく参加している。コロナ禍のために令和2年度の集合開催は見送りとなり、代わりに2回ほど「しらかば園だより」を送付して、近況をお知らせしている。	集合開催に代えて、書面開催として資料等を送付し、意見や質問を受けるような工夫によって開催されるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の支援センターケアマネ等と電話での情報交換を密にしている。	運営推進会議には地域包括支援センターの係長が出席するほか、同センターのケアマネとは電話やメールで密接に情報交換している。行政主催の地域ケア会議は、今年度はウェブ会議の形態が多いが参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業開始時から現在まで身体拘束は行っていない。研修は身体拘束適正化委員会を中心に、スピーチロックなどの何気なく出てしまうものについて、何度も同じ問題について勉強会で繰り返し取り上げることで、職員全体で共有できるように開催し、回覧で周知している。	身体拘束適正化に関する指針を作成済みであり、適正化委員会を3ヵ月毎に開催している。研修会の他、毎月の職員会議の後の勉強会でも、特にスピーチロックについて話し合っている。不適切な言葉遣いがみられる職員には、繰り返し注意し改善を促している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で勉強会を行っている。 何が虐待にあたるのか、具体例を挙げて周知を行い、職員同士での共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者はいないが、制度については研修などで理解している。今後はより一層の知識を深めるための研修を行っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧にゆっくりと説明し、納得して同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者・家族の意見を何気ない会話から引き出すよう努めている。外出の希望には、コロナのこともあり思うようにならないが、近所の畑へ散歩やもみじ狩りドライブなど行っている。	利用者の何気ない言葉から思いをキャッチして、畑に散歩に行ったり、ドライブに出かけたり季節の料理を作ったりしている。ご家族には管理者自ら、手書きの手紙で利用者の近況を知らせており、家族からの返事もあってコミュニケーションが図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議等で意見交換を行い、良いことは取り入れ運営に反映させている。	月1回の職員会議のほか、毎日の申し送りの際にも、職員から気付いたことが話されている。発電機の点検や1日の効率的な業務の流れ等について意見が出され、少しずつ改善されている。管理者との個人面談も年1回実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力やアイデア、また勤務状態を勘案した中で給与水準の引上げ等を図るとともに、利益向上による還元等、処遇改善を目指している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに応じた研修参加を実行したいが、コロナの影響で思うようになっていない。今後状況が良好になるなど変化が見られれば積極的に参加させたい。開設以来、各種資格取得を推奨しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の勉強会等に参加させたいが、コロナの影響で困難となっており施設内での勉強会を実施している。また、同業者とは電話での交流であるが近況など情報交換し職員会議で提示している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な説明と丁寧な聞き取りを心がけ、安心した生活環境が保てるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な聞き取りに努め、要望等について家族と職員が共有できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者担当ケアマネ、家族の意向にアセスメントから今必要とする支援を提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHという共同体で互いに寄り添いリハビリを行っている。利用者・職員共に支え合い信頼できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告、連絡をこまめに行い、情報共有、認識の一致するよう努め、共に支えていけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ感染防止のため面会、外出が一切出来ず電話での交流のみとなっている。	コロナ禍のために家族や知人との面会制限が続いており、電話での会話やガラス越しの面会などとなっている。普段であれば、近所の馴染みの理容店によく出かけていたが、今は控えている。このため、オンライン面会についても検討を始めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仕事の取り合い等が発生するので、当番制を設け声掛けなども、こまめに行い孤立せずに過ごしている。長寿の方、腰痛持ちの方をいたわる様子も見られる。今後も継続したいと思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、現在利用中の施設職員と連絡を取り様子を伺っている。相談があれば受け入れるなど、心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と一対一になった時などに、普段思っていることを話してくれる為、申し送りノートでy職員間で共有している。	ほぼ全員の利用者が思いを言葉で表すことが出来ており、「外出したい」とか、「家に行ってきたい」「美味しいものが食べたい」等の希望を職員に伝えている。日曜日には、その希望に沿ったメニューを利用者と一緒に手作りしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話、本人からの聞き取りなどから一人ひとりに寄り添い、サービス支援へ反映させるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを密に行い、利用者の状況を常に把握するようにしている。記録も不十分な時があるため、勉強会を行っていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常にモニタリングを行い、本人・家族への希望を伺いながらケアプランを立てている。受診時は職員の気付きや様子等記録し持参している。	介護計画は計画作成担当のケアマネが、居室担当職員の意見等も参考にしながら原案を作成し、職員カンファレンスで検討のうえで決定している。計画の見直しは3か月毎を基本に、担当職員等によるモニタリングを経て行っている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は不十分で足りない点などもまだあるため、研修などを実施し、職員の意識など統一していきたい。ケース記録のほかノート等利用し情報共有しながら介護計画へ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で利用者本人のニーズに合うサービス提供に対応し努力している。利用者個々の多機能化に対しても職員間で共有しながら支援、サービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館(2回/月) 地元商店でのおやつ材料、買い物等を楽しんでもらっている。(現在はコロナ禍中)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常受診以外は家族へ連絡してから受信し、結果報告を行い、また、別の医療機関を受診した際は、主治医に必ず報告している。	ほぼ全員が近くの協力医療機関(国保診療所)をかかりつけ医としており、月1回の定期受診には職員が同行している。また、多くの方が市内の精神科も受診している。看護業務は、隣接の小規模多機能施設の看護師の応援を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の変化であったり、気付いたときは必ず看護師へ報告し指示を仰ぎ医療機関へ伝達をして、受診・治療、結果についても申し送りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかに情報提供を行うようにしている。入院中も訪問し状況把握に努め、退院時も医療機関からの情報を共有し適切なケアを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い時期から終末期には特養等の入所申請を勧めたり、他の医療機関等と相談し引き継ぐなど、本人や家族と相談し支援している。	入居時には、重度化した場合の対応と看取りを行っていることを本人・家族に説明し、了解を得ている。ADLが低下してきた場合でも、できるだけ当事業所での生活を継続しているが、緊急入院する場合もある。協力医の確保が難しいため、看取りを行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勤務体制を整え、急変や事故発生に対応できるよう努めている。こまめに体調の確認をし状況に応じて救急対応出来るよう研修、書類等の整備などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	身体的に自力での避難が難しい利用者に対して、車イスの研修等を実施している。避難場所の確保、職員の初期対応などの研修も行っている。	ハザードマップでは浸水や土砂災害の危険区域とはなっていない。火災想定避難訓練を3か月に1回実施しており、夜間想定訓練は夜9時に行った。昨年は洪水避難指示が出され、指定の避難所に避難し、ベッドの運搬では地元の方々が協力してくれた。	指定避難所へはベッドの運搬などの困難も伴うことから、現実的な避難方策について関係機関と災害を想定しながら良く相談することを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人へ支援を行う場合、声掛けや尊厳を損ねないようケアプランに従い支援を行うことができている。訴えがある場合は、傾聴を心がけた上で出来る範囲で対応している。	人格の尊重とプライバシーの確保を基本としたケアを心掛けており、排泄や入浴介助の際には特に配慮した声掛けや、各利用者毎に細やかに対応している。入室の際にはノックと声掛けを行っている。傾聴を心掛け、思いを聴き出すよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望や訴え等、自己決定のもと利用者の家族を交え支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの居場所を確保し、読書など趣味に応じた支援を行っている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後など利用者一人ひとりに服装の確認を行っている。希望に応じて職員支援のもと、体調確認をしながらおしゃれできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を摂る場所の清掃、食後の片付けなど、利用者のADLに応じて対応している。希望があった時などは優先して活動できるよう支援している。	食事は系列の食堂から配達してもらおうが、日曜日は3食を職員と利用者が手作りし、好みを活かしたメニューとしている。食堂にも利用者の希望を伝え、対応した献立となっている。毎日3時のオヤツは利用者も手伝って作り、楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては麦茶、コーヒーなど変化をつけて取ってもらっている。食事は医師の指示のある方は指示に従って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。入歯洗浄も毎日行うよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のリズムに合わせて声掛けをしている。トイレでの排泄ができるよう声掛けをしている。	排泄チェック表をもとに利用者毎の排泄リズムを把握して適時のトイレ誘導を行い、声掛けは小声で周りに気付かれないように配慮している。全員がリハビリパンツにパットの併用となっている。失禁の際にはさりげない声掛けで対応し、本人の気持ちに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、軽運動等予防に努めている。午前、午後と一日2回のしらかば園体操で体を動かす楽しみを持って頑張っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴している。入浴日以外は足浴も行っている。通院等が入った場合は、曜日を替えて入浴している。	入浴は月、火、木、金の午前中とし、週2回を基本としている。入浴日以外には足浴も行っている。一般浴槽を全員が利用しており、職員と一対一となれる貴重な時間として、会話が弾んだり音楽を楽しんでいる。同性介助の希望は、今は出されていない。	



令和 2 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使っていた毛布、タオル等なじみのものを持参していただき、自宅にいる時の感覚で眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し飲み忘れ、飲みこぼしがないように確認している。薬情はファイリングして、いつも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛け、食器拭き、洗濯物をたたむなど、できる限り手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を聞き、可能な限り実現に向けた検討を行っているが、コロナ禍の中、ほとんど希望に添うことが出来なかった。	コロナ禍の影響を大きく受けており、外出機会が激減している。数少ない外出機会となっている通院の他には、近くの畑やご近所の散歩に出かけている。また、秋には平庭方面に紅葉狩りのドライブに出かけ、楽しんでいただいた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、現金は日常的に身近には持たせないことになっていて、希望や本人の申し出内容を都度考慮、検討し能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者、持っていない利用者双方いて、持っている利用者は自由に使用している。手紙の希望者が現状なし。あれば希望に添って支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を考慮した内容の制作活動を行い、それらの作品で装飾している。また、コロナ禍に伴い換気に細心の注意を図りつつ、温度、湿度にも気を配った措置をしている。	食堂兼ホールは、やや狭いもののエアコンや温風ヒーターで室温が快適に保たれている。壁には季節を感じさせる飾りつけがなされ、利用者はテーブルで折り紙を楽しんだり、ソファでテレビ鑑賞したり、自由に過ごしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の入れ替りや、様子の変化に合わせたテーブルやソファの配置替え、座席位置の支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの家族からの贈り物や家族の写真飾ったり、小物や置物、希望の器械類を置き、本人が過ごしやすい環境作りに心掛けている。	居室にはエアコンと空気清浄機、温風ヒーター、ベッド、チェスト、ハンガーラックが備付けられ、利用者は衣装ケースや家族写真、作成した手芸小物などを持ち込み、居心地良く過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や日常の本人の様子の双方を考慮し、その中でできることを見つけ、それを中心に可能な限り自立した生活を送れるように、声掛けや促しをして支援している。		